

らないと見られぬ、鑛物埋藏も多いであらうがまだ調査されてゐない、人口の如きも正確に知れないが千三百万と想像されてゐる、首府の外に都會といふべきはゲレダラとハラルとアケームの三つで、ハラルは同國の公國として知らるゝ古市の一で、アケームは皇帝の戴冠式を行ふ所である、十月から四月までの乾期を除いて五ヶ月間の兩期は間斷なき降雨があつて平原の土地は熱病が多いが、首府の附近は海拔八千呎の高原であるから氣候も宜しい、住民は余程複雑で、純粹のアビシニア人と云ふべきは全人口の約三分一に過ぎない、他の大多數は十六世紀中に阿弗利加中部地方より侵入したカラ族で、色も黒く文化の程度が低い、しかし互に親密で、アビシニア人と共に戦を好む風がある、近世に至り一八七五年から六年に埃及軍に勝ち、一八九六年に伊太利遠征軍を取つてからこの方、武力に就ては余程樂觀してゐる。實に此時には一万四千の伊太利軍が十二万のアビシニア兵に攻められて殆んど全滅したので本戦役の結果アビシニアは國際的に其地位を高め、首府アアスアベバには列國の公使館が設立される様になつたので今日では人口も約十一万になつてゐる。フランコ、エシオビヤン鐵道はシアチよりこゝまで延長五百哩で長さは七八六基に過ぎないが唯一の交通機關で、生産輸出品たる、獸皮、山羊、羊皮、珈琲、蜜蠟、象牙の類を佛、英等に輸送し、輸入貿易には綿製品、双物、金物類、建築材料等がある。この鐵道の外に陸路カラバンによつてナイル上流の舟運に聯絡するものがあるが、到底この鐵道の敵でない。日本製の綿布類殊に生シーチングが全輸入の八割以上に

達し、將來漸増の見込がある、しかし之を行ふものは英佛伊の人々で、日本人の直接に貿易を營んでゐるものはない、輸出品の獸皮蜜蠟の如き本邦にも相當需要があるのであるから、邦商のこの方面に活動することは望ましいことである。

## 新著紹介

### ○郷土會記録

柳田國男編

東京市外馬込村大岡山書店發行 定價貳圓

五拾錢 四六版頁數二六四 地圖十四葉

柳田氏を中心として趣味ある郷土地理研究の會合を催して居た郷土會の記録である。大正元年から同五年頃までの會合での話を柳田氏が筆録されたもので、二三の講話者の原文をも雜へて居る。話した人々には新渡戸博士を初め風俗や生業に心を用ひて居る人達が多いので生々した面白味を添へた地理學の一面を示して呉れてゐる。紹介者の殊に面白いと思つたものは新渡戸博士の「二本木村興立の話」で父祖の開墾事業の苦心を談られて居ることや、二宮徳氏の「丹波の雲原」や石黒忠策氏の「湯坪村と火燒輪和」で山中の國境が變つてゆく有様や山國の生活が海邊の生活と違つた狭さを持つて居ることを知つたり、石黒氏と田中樞吉氏との「鹿島の崎」で砂丘上の集落の状態が判り、東京附近の研究としては那須峻氏の「代々木村の今昔」、有馬頼寧氏の「沙入村の變遷」及「隅田川の船」、山中笑翁の「四谷舊事

談」があつて殊に前者から大都市に接した處が如何に變りゆき生活にどんな現象を呈させるかを教へて居ることなどであつた、この外豆南の島々などの説話が數篇ある。本書が私共に清新な感興を起させるのは全く筆記者柳田氏のあの簡素にして然かも滋味のある筆に魅せられるに據る點にもあるのだが語自體がどれも面白い。地圖が每篇に入れられてあるのもうれしい、たゞ文中に出る地名をもつと註記されてほしかった、殊に四谷の圖などは地名に乏しい爲め紹介者は「四ツ谷繪圖」を書架から取出して坂の名や袋町の有様などを見付ける手數をした。乾燥した地理書の間こんな興味しい表帳「茶色の絹表紙」で美しい書き方の地理の讀物を得たさといふことを地學愛好者と一緒に祝ひたい。(江戸生)

○日本國誌資料叢書 太田 亮著

東京磯部甲陽堂發行 四六版

信濃 頁數二八八 定價壹圓八拾錢

越後・佐瀨 頁數三一二 壹圓八拾錢

丹波・丹後 頁數三八八 貳圓參拾錢

近江 頁數五六二 參圓

本書は著者が氏族制度を主とし、系譜、神社、郷里、庄園等を調査する爲に、採録した資料に補正を加へたものである。郷土誌研究に際して本書を用ふれば諸書を涉獵する繁を省くことが出来る。吉田氏の地名辭書は日本地誌の一大權威であるにしても必ずしも其の考證は定説と云へない。本書による考

證に如何なる異説があるかを直に知ることが出来る。各篇共に地名、沿革、氏族と古城、神社、寺院、雜載の諸章があつて沿革及氏族に其の主要部を用ひてゐるが其の氏族の採録は到れるものである。本書をよく利用すれば歴史地理殊に人文に關した多くの考察が出来やうと思ふ。眞に歴史人文地理の倉庫といつてよいものである。

○華洛古地圖集

京都市計畫展覽會出陳大丸吳服店寫眞部

昨年十一月といふ押しつまつた時に京都の都市計劃課が展覽會をして京都の古地圖を蒐めた際の優秀なもの十五點を選んで寫眞版にして發賣したものである、中古京師圖による京外の白河といふのが凡謂白川者其境甚太廣焉、賀茂川以東、北從神樂北及白川山、南迄九條邊、總謂白川也とあつて今の神樂岡から吉田、粟田、黒谷、岡崎が北白川にあたり、入阪、丸山、大谷、吉水、祇園、鳥部野、六波羅、新熊野、月の輪等洛東一帶の勝地は南白川であるといふやうな事やら、今出川と云ふ川の説明さか、京都市の町通の名稱が寛永版によると今日とは違つて四條坊門(今嵯樂師)、魚や町通(今樺木町通)、五條坊門(今佛光寺通)、五條松原通(今松原通)、大佛橋通(今五條通)など古今の變遷がしれて面白い、都市研究上の好資料である。定價拾圓(藤田)

○武藏野及其有史以前 文學博士 鳥居龍藏著

磯部甲陽堂發行 大正十四年三月二十五日

定價貳圓

武藏野及其一角たる東京市(江戸)の地は民族史文化史、歴史地理、考古學、人類學等の上から極めて興味のある所であるに拘はらず、學者の閑却する所となつてゐるのを慨して、著者は嘗て東京市京橋月島小學校で講演したものを今度本書として出版されたのである、考古學上の議論が多いがさにかく通俗的に有史以前の武藏野の開發をのべたもので人文地理を研究するものにとつては餘程面白い有益な書籍である、武藏野の有史以前高臺の状態さか武藏野の環郷と民衆の生活、生活の様式と其地形との關係などサセスチープな點が多い、日本の原住民であつたアイヌに關しても博士の所論にきくべきものが多い、敢て一讀をすゝめる、(藤田)

○雷雨發現と等壓線型の關係に就て

氣象雜誌第三卷第二册 田代武四郎

中央氣象臺の田代氏は、豫て全國の雷雨を調査するに、日々の天氣圖を参照して注意してゐられたが、其結果が本論文である。等壓線の線型として、波形、乙字形、S字形、V字形、瘤形、鞍形、楕圓形、楔形等の各種の型と日々の天氣圖上に顯はれる等温線の變化とを主つて、この型のどの部分に雷雨發現の多寡があるか、其發現回數と四季の變化等を圖上に示めてある、特に大正十年五月二十三日六時の天氣圖によつて、其説明がしてあるのが、餘程面白い、要するに高氣壓の線がV字形に低氣壓の方へ突出したり、或は瘤形をなしてゐる場合に雷雨の發現が多いといふ事を明にしたものである。

質疑應答

問 能登半島の成因を問ふ

(山梨 Y生)

答 能登半島は日本海凹地成生に伴へる共心狀並に子午線の折裂線によりて形成されたる地壘なり。

即ちその西邊深海は子午線狀の折裂線に沿ひて沈降せるものと看做すべきものなり。町野川豁谷は恐らく此の主要折裂線に並走する子午線狀の一折裂線なり。能登北浦即ち日本海岸、若山川、宇出津、小木間海岸等何れも東北東より西南西に走り子午折裂線と略ぼ直交の走向を有す。此走向は日本海の南邊たる本州日本海岸並に百尋線の一般走向に一致するものなり。

邑知瀉、及び七尾南灣を経て佐渡に達する折裂線は一共心狀折裂線にしてこれがため半島は離れたる獨立的の觀ありしもの後の地變並に隆起によりて現在の地形を呈せるものならん。

問 錫蘭島の住民について伺ひたし

(大阪片山生)

答 一九二一年の國勢調査によれば人口四百四十九萬八千六百五人、人口密度一平方哩につき百七十八人に當る、之が人種別を示せば左の如し。

人種別	人	口	百分率
歐羅巴人	八、一一八		〇、二
バルガー	二九、四三九		〇、七